

科目名 ＜英語表記＞	労働法 I	科目ナンバー		授業形態
	Labor Law 1	JAAPP8906		講義
担当者	根本 到	開講期	単位数	必修・選択
		後期	2	選択必修

1. 科目の主題	
労働契約法及び労働基準法を中心とする個別的労働関係法に関する講義を行う。	
2. 到達目標	
到達目標は、労働契約法及び労働基準法（労働時間規制を除く）の法的論点を踏まえたうえで、標準的な判例や学説が何を論じているのかを把握することにある。	
3. 授業内容・授業計画	
<p>以下のように講義を進める。</p> <p>第1回 「労働者」性及び「使用者」性。</p> <p>第2回 採用の自由、採用内定及び試用期間。</p> <p>第3回 人事異動1（配転）。</p> <p>第4回 人事異動2（出向、転籍）。</p> <p>第5回 人事異動3（降格など）。</p> <p>第6回 労働関係の終了（解雇、整理解雇）。</p> <p>第7回 労働関係の終了（有期労働契約）。</p> <p>第8回 労働関係の終了（退職、定年、競業避止義務など）。</p> <p>第9回 賃金の支払い方法（労基法24条）の規制。</p> <p>第10回 賞与、退職金及び年俸制。</p> <p>第11回 賃金に関する諸論点。</p> <p>第12回 労働条件の決定と変更（就業規則）。</p> <p>第13回 労働条件の決定と変更（変更解約告知など）。</p> <p>第14回 懲戒処分。</p> <p>第15回 期末試験。</p>	
4. 事前・事後学習の内容	
事前にレジメを配布するので、レジメの内容をしっかりと予習したうえで、レジメに紹介されている裁判例を必ず読んでくること。また、事後は、講義で紹介した裁判例や学説などを読み、知識の定着を図ること。	
5. 教材	村中孝史=荒木尚志編『労働判例百選・第9版』（2016年、有斐閣）を講義の際に使用する。講義に際しては、レジメを配布するため、教科書は特に指定しない。
6. 評価方法	<p>絶対評価・相対評価</p> <p>評価の割合は下記の通りである。</p> <p>期末試験 80% 平常点 20%</p>
7. 受講生へのコメント	労働判例百選に出てくる判例だけではなく、レジメで重要判例だと示した判例は必ず入手して、読むようにしてください。